

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

---

**基本情報**

- 氏名：宮園健吾
- 研究室：哲学
- 派遣カテゴリ：平成23年度冬期個人派遣・PD

**研究課題**

『想像力と病的な妄想との関係についての研究』

**派遣先での活動**

- 派遣先の基本情報：  
アメリカ合衆国・マサチューセッツ州・ケンブリッジ市・マサチューセッツ工科大学言語学哲学科（スティーブン・ヤーブロー教授）
- 派遣期間：2012年4月1日～2012年6月30日（90日）

**主な研究成果**

(1) 当初の研究計画

統合失調症などに見られる妄想において想像力が果たしている役割について研究を行う。本研究では、想像力と妄想との関係を現代の心の哲学の文脈において取り上げ、想像力についての現代の哲学的研究と突き合わせつつ、また、興味深い研究成果を多数含んでいる妄想や統合失調のメカニズムについての心理学的、脳神経科学的、精神医学的な研究成果も参照しながら、妄想における想像力役割について研究を進める。

(2) 実際に達成された成果

想像力と妄想との関係について、2つの大きな仮説を立て、それらを、D. Hume 等に見られる「因果性仮説」、及び、G. Currie 等に由来する「同一性仮説」として整理した。前者の仮説によれば、妄想は想像的な心的状態によって因果的に引き起こされた信念であり、後者の仮説によれば、妄想は信念ではなく、それ自体が一種の想像的な心的状態である。今回の研究において、私は、因果性仮説が同一性仮説よりも適切な見解である

という論点を、経験的 (cognitive neuropsychiatry 等)、および哲学的な側面からサポートしようと試み、その中間的な成果を下記の場において発表した。

- “The Role of Imagination in Delusion: Two Hypotheses”  
American Philosophical Association, Pacific Division, 86th Annual Meeting  
(April 4-7, 2012, Seattle, WA) (Poster)
- “Delusions as Malfunctioning Beliefs”  
The 38th Annual Meeting of the Society for Philosophy and Psychology  
(June 21-24, 2012, Boulder, CO) (Poster)

### (3) 今後の研究展望

妄想と想像力とについての因果性仮説は、妄想についての信念説 (doxasticism about delusion) の一種である。すなわち、その仮説は妄想を一種の信念と見なすものである。妄想についての信念説については、しかしながら、私が「機能的役割の問題 (problem of functional roles)」と呼ぶ重要な問題が存在しており、この問題を解決するまでは、因果性仮説を十全に擁護することはできない。機能的役割の問題とは、妄想についての信念説が、現在の心の哲学における支配的な見解である信念についての機能主義と相容れない、というものである。私は既に、上記の、**Society for Philosophy and Psychology** での研究発表などにおいてこの問題について取り組んできたが、今後はこの取り組みをより本格的なものにしてゆく。現時点で既に決定している予定として、その成果を以下の場において発表する。

- 「妄想についての信念説は擁護可能か？」  
2012 年度哲学若手研究者フォーラム  
(2012 年 7 月 22 日 国立オリンピック記念青少年総合センター 東京)
- “A Theory of Belief for Delusion Doxasticists”  
First Conference on Contemporary Philosophy in East Asia  
(September 7-9, 2012, Academia Sinica, Taipei)
- TBA  
Tokyo Forum for Analytic Philosophy  
(October 4, 2012, at The University of Tokyo)